

病と宗教

— COVID19の経験からみる差別と救済の境界 —

①10:25～10:30

挨拶

川中 仁 上智大学神学部教授

②10:30～11:30

日本古代・中世における障害児の処遇

小山 聡子 二松学舎大学文学部教授

③13:00～14:00

信じる者は生き残る

—内陸アラスカ先住民社会の感染症と宗教—

近藤 祉秋 神戸大学大学院国際文化学研究科講師

④14:15～15:15

宗教と感染爆発

—通過儀礼としてのパンデミック—

堀江 宗正 東京大学大学院人文社会系研究科教授

⑤15:45～16:45

シンポジウム

司会 北條 勝貴 上智大学文学部教授

6月
11日
(土)

【開催方法】会場（定員50名）+オンライン

【会場】上智大学中央図書館8階821会議室

【申し込み方法】受付期間 5/2～5/31

下記申込フォームよりお申込ください。お電話での受付は行っておりません。

※お申し込みの際「kiriken-co@sophia.ac.jp」からのメールを受信できるよう、迷惑メール設定から解除、または受信設定をお願いいたします。

※申込期間以外の受付はお断りさせていただきます。ご了承ください。

(申込フォーム)<https://forms.office.com/r/fy1FRMpJjD>



【聴講料】お支払は銀行振込みのみ。詳細は申込者へ別途ご案内いたします。

一般 1,000 円 / 学生 800 円

【問合せ】ご不明点等ございましたらお問い合わせください。

メール : kiriken-co@sophia.ac.jp

電話 : 03-3238-3540 (受付時間 月曜～金曜 11:00-14:00)

※開催方法、問合せ受付時間は変更になる場合がございます。

※最新情報等は研究所HPにてお知らせいたします。

※パソコンの操作についての電話でのお問い合わせにはお答えできかねます。何卒、ご了承ください。

第 49 回 連続講演会

病と宗教

—COVID-19 の経験からみる差別と救済の境界—

趣旨

病と宗教には、根源的な関わりがある。イエスや釈迦は、当時最も忌避された最下層の人びと、難病に苦しんだ人びとに寄り添い、彼らを救済するための教えを説いていった。また民族社会においては、病の原因や治癒の論理に、同社会の宇宙観が濃厚に反映されている。世界に内在する問題そのものを病と捉え、宗教者を医師に譬える言説も多くみられる。しかし一方で、宗教が病者を差別することで自身を正当化する事例も、残念ながら枚挙に暇がない。「宗教は病を克服する宿命がある」というより、宗教と病とは相補的な関係にあるといったほうがよいほど、両者の結びつきは密接なのである。そうして私たちは、現在、世界を揺るがす新型コロナウイルスのパンデミックに直面している。COVID-19 は社会に対しX 線の役割を果たし、これまで沈潜していた種々の問題を明るみに出した。感染症の直接的な被害で命を落としたひとは、実に 600 万人を上回り、またその政治的・社会的・経済的圧力のもとに、いまも生死の狭間にあるひとは数知れない。そのなかで宗教は、一体どのような役割を果たした／えているのだろうか。あるいは、今後も引き続き訪れるかもしれない生存の危機に、どのように対処してゆけるのだろうか。今年度の連続講演会では、宗教と病との多様な関わりをさまざまな時間・地域のなかに捉え、未来の指針についても考えてゆくことにしたい。